

巻頭言

越智 光夫

広島大学学長

皆さん、こんにちは。広島大学の越智です。本日は、大変お暑い中、このようにたくさんの方々にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。広島大学を代表して、一言ごあいさつをさせていただきたいと思います。

本日のシンポジウム「原爆体験・戦争記憶の継承～託す平和遺産」にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。講師の先生方には、大変ご多忙の中をご出席賜りましてありがとうございます。

基調講演をお引き受けいただきました、英国はもとよりヨーロッパを代表する日本研究者、大変日本語もお上手だと伺っておりますが、シェフィールド大学名誉教授のグレン・フック（Glenn D.Hook）先生、そして特別講演をお引き受けいただいた、紛争とメディア研究の第一人者であり、グラスゴー大学教授のアンドリュー・ホスキンス（Andrew Hoskins）先生には、大変過密なスケジュールの中を広島の地までお越しいただきまして本当にありがとうございます。

また、志賀賢治広島平和記念資料館館長さまにおかれましても、8月6日を直前に控えた大変お忙しい時期に、はせ参じてい

ただきましたこと、心より感謝致したいと思っております。

本日のシンポジウムでは、被爆地広島、長崎の重要な、そして緊急的な課題であります原爆体験継承の問題をテーマに議論を深めていただきたいと思います。その可能性について、示唆に富むお話をしていただけるものと期待致しております。

この4月には、広島大学も新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」を策定し、平和実現の責務を新たな大学の長期ビジョンに加えております。これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働き掛ける新しい平和科学の理念、これは「持続可能な発展を導く科学」という理念であります。その創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学であり続けたいと思っております。本シンポジウムを主催します平和科学研究センターには、その中心的担い手として大いに期待しているところです。

この4月からは、3年間センター長の重責を担っていただきました西田恒夫現名誉センター長に代わり、川野徳幸教授にセン

ター長に就任していただきました。広島
の理念を基礎とした原爆被爆に関する研究、
同時に平和構築などの分野における平和研
究に特に力を入れていただき、広島
の平和、日本の平和研究をけん引するととも
に、世界にぜひ発信していただきた
いと思っております。

改めまして、本日のご参加を心より歓
迎致しますとともに、本日のシンポジウム
が実り多いものであるよう心より祈念致し
まして、簡単ではございますが、私から
のごあいさつにさせていただきます。どうも
ありがとうございます。